

学校遊具の新設・更新について



子どもは遊具での遊びによりコミュニケーションや協力のスキルが向上します。また、認知的には創造性や問題解決能力が育まれます。

質問

現在、学校では使用禁止ロープを張った状態になっている遊具があるが、学校遊具の更新の考え方については？

答弁

市立小学校遊具の更新は、各学校において、学校配付予算により対応しています。加えて、学校配付予算では対応が困難な大型の遊具、例えばジャングルジムなどについては、教育委員会が、他の遊具の数や学校規模等を考慮し、優先順位をつけたうえで、対応しております。

質問

市内小学校では、遊具の安全点検を年に何回実施しているか？また、その内、専門業者による点検を実施しているか？

答弁

各学校による自主点検を毎月1回、事業者による安全点検を2年に1回実施しており、安全上支障がある遊具につきましては、直ちに使用を禁止しています。

質問

予算の関係上、専門業者による定期点検は実施できていない状況が視えるが、当局は現行の予算を見直し、子どもが快適に過ごせる環境を整えるための修繕費を捻出する予算を増額補正する等対応すべきだと考えるが、当局の考えは？

答弁

遊具の修繕は、学校配付予算により各学校が行っていますが、予算に不足が生じる場合は、他の小学校の状況や緊急性などを勘案し、教育委員会からの予算の追加配付により対応しております。

質問

毎年、各学校では修繕に関する要望を出していると思われるが、当該要望の件数・必要見込み額は？

答弁

全ての小学校の要望を把握できるように、遊具の現状を把握することを目的とする調査を学校に依頼する準備を進めています。今後、小学校遊具に関する情報を一覧できるデータベースを整備し、その後、小学校遊具の長寿命化のための基本方針の策定を検討して参ります。

●意見・要望 当局におかれましては、早急に遊具に対するハザードを除去し、児童にとって安全で楽しい遊び場を確保すると共に、日常点検において劣化及び損傷を把握し、遊具設備の長寿命化のための基本方針を作成するよう強く求めます。

また、利用者からの不満の声が大きいということは、整備が行き届いていないと言えます。今後は、子どもたちの学校生活を豊かにする遊具の状況を把握、管理できるようデータベース化を求めます。

今回、学校遊具の現場を拝見して、学校施設の問題点も見えてきました。学校施設は長寿命化計画がありますが、内外壁の剥がれ、雨漏り、各種設備配管、体育館、給食室などの施設も含めて、将来のコストと予算基準額を対比し、どの程度財源不足が生じるかなど、財源確保の課題とその対策、各学校施設の整備状況に偏りがないよう求めます。

学校施設については、子ども達の学び場であると共に、地域住民にとっては災害時には避難場所としての役割も果たす重要な公共財産です。教育環境を保持するためには、小規模修繕など日常の維持管理は重要ですので、教育費予算全体で、修繕等に係る事業の必要性や緊急性をしっかりと見極め、必要な予算を確保して、学校施設・設備の維持管理に努めるよう求めます。



壊れた遊具

千葉市議員(中央区選出)

現場主義

三井みわこ 議会報告



令和5年第2回定例会 一般質問で登壇!



これまで、福祉の視点、女性の視点で、高齢者対策、障がい者支援、子どもから大人まで、誰もが「安心・安全に暮らせるまちづくり」を目指して取り組んでまいりました。これからも福祉の専門的知識を活かして全力で取り組んでいきます。

令和5年第2回定例会が、6月7日～6月22日に開催されました。今議会では、「障がい者福祉について」「小学校遊具の新設・更新について」「ふるさと納税について」一般質問で登壇しましたのでご報告します。

第2回定例会

令和5年 第2回定例会 一般質問

ふるさと納税について

先日の新聞に掲載されていた勝浦市のふるさと納税に関する記事を読み衝撃を受けました。勝浦市の2022年度(令和4年度)ふるさと納税額が約55億円で、県内で断トツの1位とのことでした。

千葉市の2021年度(令和3年度)ふるさと納税額は約1.1億円です。反対に千葉市民が他自治体にふるさと納税を行った額は約36億円。差し引き約35億円が他自治体に流れていることとなります。

質問

今年度、市では個人版ふるさと納税額を増やすために盛り上げていく具体的な取組みは？

答弁

本市は令和3年度以降ふるさと納税の運用見直しを行っています。複数のふるさと納税サイトを活用することや返礼品の充実を順次進めています。



質問 個人版ふるさと納税は、どのような事業に使われているのか？

答弁 現在、本市では使い道として13のメニューを設けております。これらのメニューで受け入れた寄附金については、例えば「福祉・子育て支援全般」であれば民間社会福祉施設への物品寄贈など、「ZOZOマリンスタジアムの充実」であればスタジアムの施設改修など、メニューに沿った事業に充当しているところであります。

質問 本市ふるさと納税における民間ふるさと納税サイトは4種類あるが、民間のふるさと納税サイトの種類を増やすことは考えているのか？

答弁 より多くの方に「千葉県への寄附」を知ってもらい、返礼品に対するニーズに的確に対応するため、ふるさと納税サイトの規模や、取り扱う返礼品の特性を踏まえ、新たに追加することを検討しております。

●**提案** 本市もふるさと納税が行われ、返礼品の種類は多くなっています。今後のふるさと納税事業を盛り上げるためにも、本市の、特に食品における返礼品目の割合を調査し、1番多い品目は「お米」で39%、2番目は海苔15%、3番目はお菓子12%となっています。

例えば、千葉市に大きい食品工場が多く、地元のものや他とコラボした加工品などの商品開発の戦略を行い、違った展開方法で返礼品の開拓と促進を行ってみたいはどうでしょうか。

●**意見・要望** ふるさと納税において、千葉市が選ばれるためにはまずは、本市に興味を持ってくれる市外県外者を増やす必要があります。先日、私は栃木県真岡市のふるさと納税についての勉強会に参加した際、本市でも実行できるといったことをお話しします。真岡市の2021年度（令和3年度）ふるさと納税額は4千万円でしたが、

2022年度（令和4年度）は1.8億円となり約4倍に増えたとのことです。

真岡市では、企業の手法を用いてふるさと納税のプロモーションを行い、職員が行政の縦割りを超えて、いま現在も柔軟に動き続けています。やみくもに施策を進めるのではなく、しっかりと統計をもとに施策をすすめていることが強調されています。

例えば、市外に在住している方で千葉市ホームページをみている世代の分析、どのページがよくみられているか、ウェブ検索ではどのようなワードから千葉市のホームページにたどり着いている等をもとに、千葉市に興味がある世代や性別を絞りこみ、数値化して、客観的事実をもとにデジタルマーケティングを行うことが必要です。

また、真岡市では年に複数回、市長・副市長・各部局の長が横断的な視点で話し合い、PDCAサイクルを回して、常に改善を行っているとのこと。

今後、本市においてもふるさと納税の取り組みにあたり、考慮されるべきことだと思います。

障がい者福祉について

県内企業における障がい者雇用率は、直近で2.22%（全国37位）と法定雇用率2.3%を下回り、また、法定雇用率達成企業の割合も50.2%（全国39位）です。

このような中、特に中小企業へのアプローチを強化する必要があります。しかしながら、企業側からは、障がい者の雇用に関心はあってもその手段がわかりづらいと聞いています。そのギャップを埋めるため、昨年11月、千葉県中小企業家同友会では障がい者職場見学・実習受入企業のマップをweb公開し、障がい者と中小企業をマップでつなぐ取り組みをスタートしました。このマップでは、受入可能な障がいの種別や実習で受入可能な職種などを見ることができます。

中小企業家同友会では障がい者と企業をマップでつなぎ、市内企業との障がい者雇用のさらなる促進、行政との連携強化に取り組んでいます。

質問 市内民間企業における障がい者雇用の状況はどうか？また、障がい者雇用促進のために、市ではどのように取り組んでいるのか？

答弁 本市在住の障害者の就職件数は、令和2年度は582件、3年度が570件、4年度が604件となっております。

本市の障害者雇用の促進のための取り組みとしては、千葉障害者就業支援キャリアセンターの運営に参画し、同センターで障害者、企業双方の就労等の相談に応じております。

また、障害者が職場実習を行う際の費用の一部を市が助成するほか、一般企業等への就労を希望する障害者に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行うサービスを提供しております。

質問 障がい者が、就労を希望した場合、採用までの流れに関し、具体的な方法として企業側がどのようなことをするのか？

答弁 千葉障害者就業支援キャリアセンターにおいて、企業からの障害者雇用に係る相談を受けるとともに、障害者と企業の相互理解を深めて職場環境を整えるための実習計画の策定から、就職後も職場訪問を行うなど、確実な職場定着へ結びつけるよう取り組んでおります。

また、企業の負担軽減及び雇用のインセンティブとするため、今年度から、実習事業の補助単価を1日当たり2千円から5千円に拡充しております。

質問 企業の側は、千葉障がい者就業支援キャリアセンターや障がい者職場実習事業などの市の取り組みを知らないという声も聞かれますが、本市は、企業側に障がい者雇用を促すため、どのように周知しているのか？

三井みわこプロフィール

- 1971年：生まれ 千葉市中央区登戸在住
- 2002年：NPO法人「ハートケアゆーあい（障がい者の施設）」設立
- 2003年：聖徳大学大学院 児童学研究科 修士課程終了
- 2006年：NPO法人政策塾「一塾塾」（熊谷知事と同期）卒業
千葉県教育戦略ビジョン策定作業部委員
- 2007年：社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、軽費老人ホーム「ほんだくらぶ」の運営に携わる
- 2008年：ちばCO2CO2ダイエット推進/県議会議員
- 2010年：千葉市「新市計画策定のための市民ワークショップ」委員
- 2011年：千葉市議会議員選挙初当選
- 2013年：都市建設委員会副委員長
- 2015年：千葉市議会議員選挙2期目当選
- 2018年：千葉市議会総務委員会 副委員長
- 2023年：千葉市議会議員選挙3期目当選
千葉市議会総務委員会 副委員長

ご意見・ご要望がありましたら、右記の連絡先までよろしく申し上げます。

答弁 千葉障害者就業支援キャリアセンターや障害者職場実習事業などの市の取り組みについて、キャリアセンターとハローワークが連携して広報を実施しているほか、本市も千葉商工会議所の会議の場で説明するなど取り組んでおります。

今後も関係機関や企業団体と連携し、より多くの企業に本市の制度などの情報が行き渡るよう努めて参ります。

質問 本市は、障がい者と中小企業をホームページ等によりマップを使うなど、つなぐ取り組みを行うことを考えているか？

答弁 千葉県中小企業家同友会が製作した「千葉県障がい者職場見学・実習受け入れ企業マップ」を市のホームページで紹介し、企業と障害者のマッチングを進めるなど、障害者雇用を促進して参ります。

●**意見・要望** 本市は、企業の実習事業の補助単価を1日あたり2千円から5千円に拡充し、また、市役所内の障害者就労の場であるチャレンジオフィスちばしでは、障害者の一般就労へのステップアップの場としての位置づけもあり、最大3年間の雇用期間内に一般就労を目指すこととしており、これまで13人が一般就労したとのことです。

障害者雇用に関しては、他市より進んでいると感じます。現在、特に中小企業の人材不足が叫ばれ、このため本市、特別支援学校高等部、市内ハローワークと中小企業の橋渡しになるような施策の推進を強く求めます。

E-mail : mm@mitsui-miwako.com
Twitter ID : 三井みわこ
発行 : 三井 美和香
TEL&FAX : 043-216-5432
〒260-0033 千葉市中央区春日
1丁目6-11-106

三井みわこ  **で検索!**



<http://www.mitsui-miwako.com>   